

RCNP 研究会報告

研究会名 : 「新規医療イノベーションのためのシンポジウム」
開催日 : 2014年11月10日(月)～11日(火)
開催場所 : 大阪大学会館講堂
参加者数 : 106名(国内のみ)
世話人 : 篠原厚、深瀬浩一、高橋成人(阪大理)、金田安史、畑澤順、小川和彦(阪大医)、中野貴志、中井浩二、増田敏裕、福田光宏(RCNP)
Web page : <http://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/~medsci/index.html>

内容及び成果 :

R I を用いた革新的な放射線治療・核医学診断技術の確立と実用化を目指し、加速器・原子核物理学、核化学・有機化学、核医学・臨床などの異分野の研究者が一堂に会して最先端の基礎・応用研究の現状と今後の方向性、具体的な研究課題とその解決策などについて共通の場で討論を行うためのシンポジウムを開催した。本シンポジウムは、研計委で採択された研究会「RCNPにおける医理連携研究の現状と可能性」をベースに、学内の3部局(医学系研究科、理学研究科、核物理研究センター)の共同主催という形に発展させて実現したものである。

本シンポジウムは、6つのセッションから構成され、20件の講演(基調講演3件、招待講演11件、一般講演6件)が行われた。各セッションのテーマは次の通りである。

1. 開会、医理連携への期待、放射性医薬品用R I の現状と今後
2. 医学研究の現状と課題
3. 加速器とR I 製造
4. R I 製造・分離、R I 薬候補合成
5. 臨床応用(新規イメージング、内用療法)、産学連携
6. まとめ

各セッションでは、アルファ線放出核種を用いたがんの内用療法、加速器によるSPECT検査用Mo-99及びTc-99mの製造に関わるトピックスなどを重点的に取り上げ、特に、R I 製造用加速器の現状と大強度化の課題、R I 生成・分離の高効率化と自動化の見通し、患部へのデリバリー化合物の選定とR I 標識化の課題、At-211を用いたアルファ線内用療法及びTc-99mを用いたSPECT検査などの臨床側からの要求と課題などについて白熱した議論が行われた。また、学外の参加者からは医理核物連携ネットワークを参加と協力の申し出が相次ぎ、今後の医理核物連携の拡大と強化を一層推進していくことで会場の認識は一致した。

シンポジウム開催に当たり、メーリングリストなどを通じて医学・化学・核物理・加速器などの多くの分野に幅広く周知したことから、様々な分野から100名を超える多数の参加者を得ることができた。特に若手研究者や企業の方々も数多く参加し、産官学の活発な意見交換が繰り広げられて、極めて有意義なシンポジウムとなった。

なお、今回のシンポジウムでは、若手研究者を含む学外の講演者に対して旅費の補助を行ったが、旅費の負担を理学研究科と分け合ったことから、RCNPからの支給額は113千円程度に抑えることができた。サポートしていただいたRCNP及び研計委に対しまして、厚く御礼申し上げます。

以上